



2024年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年1月12日

上場会社名 松竹 株式会社
コード番号 9601
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 敏弘
問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 尾崎 啓成
四半期報告書提出予定日 2024年1月12日
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

上場取引所 東 札 福
URL <https://www.shochiku.co.jp>
TEL 03-5550-1699
配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第3四半期の連結業績（2023年3月1日～2023年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	62,464	8.5	1,848	—	847	△26.8	2,505	△60.0
2023年2月期第3四半期	57,596	11.6	△1,166	—	1,158	—	6,258	—

(注) 包括利益 2024年2月期第3四半期 4,578百万円 (△34.8%) 2023年2月期第3四半期 7,020百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第3四半期	182.40	—
2023年2月期第3四半期	455.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期第3四半期	199,889	90,683	45.3	6,592.00
2023年2月期	178,803	86,482	48.3	6,289.19

(参考) 自己資本 2024年2月期第3四半期 90,569百万円 2023年2月期 86,391百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2024年2月期	—	0.00	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年2月期の連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	87,730	12.2	1,300	—	130	△90.4	1,870	△65.9	136.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）、除外 ー社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年2月期3Q	13,937,857株	2023年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2024年2月期3Q	198,509株	2023年2月期	201,406株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年2月期3Q	13,738,347株	2023年2月期3Q	13,735,336株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、一部足踏みが見られるものの、新型コロナウイルス感染症による制限の緩和に伴い、個人消費やインバウンド需要の持ち直し等の動きが見られます。また、雇用・所得関係が改善するものの、資源価格の高騰や、物価上昇の影響等により、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の効率化を図るとともに、積極的な営業活動に努めて参りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高62,464百万円(前年同期比8.5%増)、営業利益1,848百万円(前年同期は営業損失1,166百万円)、経常利益847百万円(前年同期比26.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益2,505百万円(前年同期比60.0%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、邦画8本、洋画3本、アニメ4本、シネマ歌舞伎、METライブビューイング、松竹ブロードウェイシネマと、多様な作品を公開しました。邦画では3月の「なのに、千輝くんが甘すぎる。」、9月の「こんにちは、母さん」が興行収入10億円を超えるヒットとなりました。洋画では4月の「パリタクシー」がヒットしました。また、4月の「滝沢歌舞伎ZERO FINAL 映画館生中継!!」は全国で売り切れが続出し、大ヒットとなりました。

興行は、邦画では「名探偵コナン 黒鉄の魚影」が興行収入100億円を超える大ヒットとなり、「君たちはどう生きるか」「キングダム 運命の炎」等も大ヒットしました。洋画では「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」「ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE」が大ヒットとなりました。他方、2023年8月に発生した台風7号の浸水被害により一部の映画館が休館となりました。

テレビ制作は、地上波にて連続ドラマ「やわ男とカタ子」、2時間ドラマ「再雇用警察官5」「警視庁追跡捜査係ー交錯ー」、BS放送にてスペシャルドラマ「悪女について」、時代劇「無用庵隠居修行7」「鬼平犯科帳SP 本所桜屋敷」、連続ドラマ「めんつゆひとり飯」「雲霧仁左衛門6」「OZU ～小津安二郎が描いた物語～」を制作しました。

映像版權は、DVD・ブルーレイディスク販売にて「なのに、千輝くんが甘すぎる。」「魔法使いの嫁 SEASON 2」「シャイロックの子供たち」「“それ”がいる森」「銀河英雄伝説Die Neue These 策謀」「シスター 夏のわかれ道」「ある男」「エンドロールのつづき」等の新作を発売し好調に推移しました。

配信は、定額制動画配信では「耳をすませば」を独占配信し、売上に大きく貢献しました。都度課金型動画配信では「ある男」「かがみの孤城」の2作品を独占先行配信し話題となりました。

CS放送事業等は、松竹ブロードキャスティング㈱が、昭和アイドル特集など特色ある番組を編成し、新規加入者数の向上に結びつきました。また、ケーブルテレビ局の新規採用が決定するなど、有料放送市場におけるシェア拡大に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は32,859百万円(前年同期比10.3%増)、セグメント利益は1,433百万円(前年同期はセグメント損失1,519百万円)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、歌舞伎座新開場十周年を冠した公演を上演し、4月の「鳳凰祭四月大歌舞伎」が盛況を博しました。4月以降は2部制公演となり、6月から一幕見席の販売も再開する等、コロナ禍以前の公演形態に戻すことができました。

新橋演舞場は、3月の「ルーザーヴィル」、4月の「滝沢歌舞伎ZERO FINAL」、5月「少年忍者『俺たちのBANG!!!～大劇場を占拠せよ～』」、7月の新作歌舞伎「刀剣乱舞 月刀剣縁桐(つきのつるぎえにし)のきりのは)、9月の「ふるあめりかに袖はぬらさじ」、10月の「少年たち」、11月の「シェルブールの雨傘」等が好成績を収めました。6月の熱海五郎一座公演と8月の「ビートルジュース」は一部公演中止となりましたが、好評を博しました。

大阪松竹座は、3月の「東西ジャニーズJr. Spring Paradise」、4月の「ルーザーヴィル」「垣根の魔女」、5月の「少年忍者『俺たちのBANG!!!～大劇場を占拠せよ～』」、7月の「七月大歌舞伎」、9月の「ビートルジュース」、10月の「星降る夜に出掛けよう」、11月の「キャメロット」等が好成績を収めました。8月の「One ANOTHER」は一部公演中止となりましたが収益を確保しました。

南座は、3月に「三月花形歌舞伎」、4月に「若き日の親鸞」、6月に「星降る夜に出掛けよう」、8月に「坂東玉三郎特別公演」、9月に「新・水滸伝」、10月に「錦秋喜劇特別公演」を上演し、収益に貢献しました。

その他の公演は、3月のサンシャイン劇場での「歌うシャイロック」が好評を博し、6月の三越劇場では新派百三十五年記念「三婆」、10月の日生劇場では「キャメロット」が高収益を確保しました。

巡業は、4年振りに公文協歌舞伎巡業が再開し、全国38会場を公文協東コース・西コースとして廻り、好評を博しました。

シネマ歌舞伎では、4月からシネマ歌舞伎「月イチ歌舞伎2023」がスタートしました。METライブビューイングは、2022-23シーズンの後半7作品を順次7月まで上映しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は18,258百万円（前年同期比8.6%増）、セグメント損失は891百万円（前年同期はセグメント損失1,299百万円）となりました。

（不動産事業）

不動産賃貸では、入居テナントとの綿密なコミュニケーションと良好な関係構築に努めることで、主要物件の高稼働により安定収益を確保し、概ね計画通りの収益に貢献しました。また、新たに東銀座エリアに土地建物を取得し、賃貸稼働を開始しました。中長期戦略である東銀座エリアマネジメント活動における一般社団法人とまちづくり推進協議会は賛同いただく企業も増え、コロナ禍の収束状況を見極めて街の賑わい創出イベントを開催するなど、地域貢献及びエリアの価値向上のための取り組みを一層強化しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,757百万円（前年同期比6.8%増）、セグメント利益は4,169百万円（同0.6%減）となりました。

（その他）

プログラム・キャラクター商品は、「なのに、千輝くんが甘すぎる。」「東京リベンジャーズ」シリーズ等の作品を中心に収益に貢献しました。

イベント・オンライン配信は、4月に幕張メッセにて超歌舞伎2023「御伽草紙戀姿絵」を開催し、同時生配信視聴数は過去最高となりました。ホラーコンテンツ「松竹お化け屋本舗」シリーズは、5月に宿泊型ホラー「インフェルノロッジ」を岐阜県のキャンプ場で開催、7月からは宮崎県、8月は愛知県にてホラーイベントを開催し人気を博しました。アニメ作品「ARIA」シリーズによる初のオーケストラコンサート「ARIA The SINFONIA」は、本公演に加え3面スクリーンでのライブビューイング及び配信も実施し盛況となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,588百万円（前年同期比14.5%減）、セグメント損失は438百万円（前年同期はセグメント損失374百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ21,086百万円増加し、199,889百万円となりました。これは主に土地、現金及び預金の増加等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ16,884百万円増加し、109,205百万円となりました。これは主に借入金の増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ4,201百万円増加し、90,683百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、2023年10月12日付「2024年2月期 第2四半期決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,113	21,732
受取手形、売掛金及び契約資産	7,469	6,541
商品及び製品	1,701	1,633
仕掛品	3,953	4,686
原材料及び貯蔵品	117	115
その他	2,420	4,871
貸倒引当金	△2	△4
流動資産合計	31,772	39,577
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	39,836	39,805
設備（純額）	9,712	8,959
土地	39,688	51,965
その他（純額）	3,799	3,691
有形固定資産合計	93,036	104,421
無形固定資産		
その他	1,914	1,918
無形固定資産合計	1,914	1,918
投資その他の資産		
投資有価証券	33,467	35,487
退職給付に係る資産	159	268
その他	18,539	18,326
貸倒引当金	△86	△109
投資その他の資産合計	52,079	53,972
固定資産合計	147,030	160,312
資産合計	178,803	199,889

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,116	6,483
短期借入金	4,871	4,921
1年内返済予定の長期借入金	17,404	19,801
未払法人税等	865	750
賞与引当金	527	206
訴訟損失引当金	—	192
その他	7,776	9,397
流動負債合計	37,561	41,752
固定負債		
長期借入金	33,887	45,773
役員退職慰労引当金	212	232
退職給付に係る負債	1,767	1,857
資産除去債務	1,512	1,454
その他	17,380	18,135
固定負債合計	54,759	67,452
負債合計	92,320	109,205
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,157	30,174
利益剰余金	13,576	15,668
自己株式	△1,464	△1,444
株主資本合計	75,288	77,417
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,426	13,432
為替換算調整勘定	△63	△63
退職給付に係る調整累計額	△259	△215
その他の包括利益累計額合計	11,102	13,152
非支配株主持分	91	114
純資産合計	86,482	90,683
負債純資産合計	178,803	199,889

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
売上高	57,596	62,464
売上原価	34,470	36,401
売上総利益	23,125	26,063
販売費及び一般管理費	24,291	24,215
営業利益又は営業損失(△)	△1,166	1,848
営業外収益		
受取利息	8	13
受取配当金	368	423
雇用調整助成金	72	5
協力金収入	238	—
補助金収入	2,570	72
その他	269	140
営業外収益合計	3,527	655
営業外費用		
支払利息	414	412
借入手数料	102	151
持分法による投資損失	567	977
その他	118	114
営業外費用合計	1,202	1,656
経常利益	1,158	847
特別利益		
固定資産売却益	※1 6,985	—
持分変動利益	※2 321	—
資産除去債務戻入益	15	—
投資有価証券売却益	—	※5 2,884
事業譲渡益	—	※6 200
受取補償金	—	※7 505
特別利益合計	7,322	3,589
特別損失		
固定資産除却損	7	40
災害による損失	※3 52	※3 604
公演中止損失	※4 205	—
減損損失	—	46
違約金	—	29
訴訟損失引当金繰入額	—	192
特別損失合計	266	913
税金等調整前四半期純利益	8,214	3,524
法人税、住民税及び事業税	793	991
法人税等調整額	1,488	3
法人税等合計	2,281	995
四半期純利益	5,933	2,528
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△325	22
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,258	2,505

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
四半期純利益	5,933	2,528
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,094	2,003
退職給付に係る調整額	△7	43
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	2
その他の包括利益合計	1,087	2,049
四半期包括利益	7,020	4,578
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,345	4,555
非支配株主に係る四半期包括利益	△325	22

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（追加情報）

（台風7号による被害の発生）

2023年8月に発生した台風7号の影響により、株式会社松竹マルチプレックスシアターズが運営する劇場において浸水被害が発生しました。これによる原状復旧費用等を特別損失にて「災害による損失」604百万円を計上しております。また、これに伴う損害の補償金として特別利益にて「受取補償金」505百万円を計上しております。なお、現時点において、合理的に算定することが困難な受取補償金や損失等につきましては、「受取補償金」及び「災害による損失」には含めていないため、当該計上額は今後変動する可能性があります。

（四半期連結損益計算書関係）

※1. 固定資産売却益

前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

建物及び構築物、設備及び土地等の売却によるものであります。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

該当事項はありません。

※2. 持分変動利益

前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

持分変動利益は、連結子会社であったB S松竹東急株式会社の第三者割当増資に伴い、当企業グループの持分比率が低下したことによるものであります。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

該当事項はありません。

※3. 災害による損失

前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

（追加情報）に記載のとおり、2023年8月に発生した台風7号の影響により連結子会社である株式会社松竹マルチプレックスシアターズが運営する劇場において浸水被害が発生しました。これによる原状復旧費用等を特別損失に計上しております。

※4. 公演中止損失

前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

舞台関係者の新型コロナウイルス感染者の急増により、代役による公演継続等代替的な対応をとることができず、一部の公演を中止せざるを得ない状況となりました。このため当該公演にかかる製作費・人件費・地代家賃等を公演中止損失として特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

該当事項はありません。

※5. 投資有価証券売却益

前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

当社が保有する投資有価証券のうち国内上場株式1銘柄を売却したことによるものであります。

※6. 事業譲渡益

前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

2023年4月1日に、連結子会社である株式会社松竹サービスネットワークが、保険代理店事業を株式会社トータル保険サービスに事業譲渡したことによるものであります。

※7. 受取補償金

前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

（追加情報）に記載のとおり、2023年8月に発生した台風7号の影響により連結子会社である株式会社松竹マルチプレックスシアターズが運営する劇場において浸水被害が発生しました。これに伴う損害の補償金として特別利益に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	29,785	16,816	9,136	1,858	57,596	—	57,596
セグメント間の内部売上高又は振替高	103	140	1,489	104	1,837	△1,837	—
計	29,889	16,956	10,625	1,962	59,434	△1,837	57,596
セグメント利益又は損失(△)	△1,519	△1,299	4,193	△374	999	△2,165	△1,166

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等があります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,165百万円には、セグメント間取引消去2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,168百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	32,859	18,258	9,757	1,588	62,464	—	62,464
セグメント間の内部売上高又は振替高	88	121	1,449	83	1,741	△1,741	—
計	32,948	18,379	11,206	1,671	64,206	△1,741	62,464
セグメント利益又は損失(△)	1,433	△891	4,169	△438	4,273	△2,424	1,848

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等があります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,424百万円には、セグメント間取引消去1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,426百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

演劇事業において、連結子会社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、回収可能価額を零として、帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては46百万円であります。